Dr. 健康コラム

乳がんの治療について

城里町国保七会診療所　上井　雅哉

■ 乳がん治療に必要な情報とは？

乳がんに限らず、がん全般での治療法の決定や予後（治療経過の見通し、改善の見込み）を予測するうえで必要な情報は、がんの【性質】と【進行度】です。

がんの【性質】とは、採取した細胞や組織の病理検査でがんと診断され、その組織型や悪性度（生物学的にゆっくり進行するものか、急速に進行・転移して生命を脅かすリスクの高いものか）についての情報をいいます。

がんの【進行度】とは、がんの広がりや転移の有無から判断される「ステージ（病期）」のことをいいます。

乳がんと一口に言っても、乳腺小葉や乳管から発生したことは共通ですが、実は不均一な疾患の集合です。乳がんの治療を計画するうえで、がんの【性質】と【進行度】に関する情報を適切に集めることが重要です。

■ 乳がんの性質

予後予測や薬物療法を行う際に、どの薬を使うか決定するのに重要です。

- 病理検査によりわかるがんの組織型
- がんが周囲に広がっているか（浸潤の有無）
- がん細胞の悪性度
- 女性ホルモン受容体の有無　など

■ 乳がんの進行度を知る

手術による切除が可能か、また手術の方法を決定するのに重要です。

- しこりの大きさ　・がんの広がり
- 周囲の血管やリンパ管にがんが入っているか（脈管侵襲の有無）
- 脇の下や頚のリンパ節、その他の臓器（骨、肺、脳など）への転移の有無　など

■ 乳がん治療の戦略

乳がん治療には、手術や放射線治療（局所療法）、抗がん剤治療（化学療法）、ホルモン療法等からなる薬物治療（全身療法）があります。

最近30年の間に乳がんの診断・手術法の研究は進み、新しい治療薬の開発も進められてきました。治療経験やデータの蓄積により、患者の状況に合わせた治療法がある程度わかってきました。多くの乳がん診療の専門家で合意が得られている標準的治療を基本とし、個別の条件（閉経後であるか、肝機能、心機能などの臓器障害の有無、患者の希望など）を考慮し、一人ひとりに合ったオーダーメイドな治療が決定されていることと思います。

乳がん診断の際の条件により、下表の流れに従い、治療法が検討されます（治療法の一例）。

■ 乳がん治療にあたり

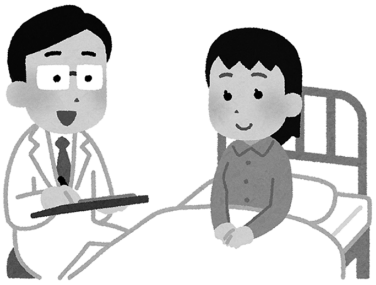
乳がんと診断された時点では他の臓器へ転移がないとされても、画像検査では検出されないほど小さながんの微小転移を想定し、それを根絶することを目指して手術後の放射線治療や薬物治療が施されることがあります。

腫瘍が大きくても、薬物治療の効果が期待できるタイプの乳がんの場合は、あらかじめ薬物治療を行い、腫瘍を小さくしてから乳房を残す手術（乳房温存手術）が可能になることもあります。

乳がんの【性質】と【進行度】により治療方法や治療の順番を検討し、治療が進められることを紹介しました。病状により選択肢が制限される場合もありますが、納得して治療を受けるためにも「自分にとって何を優先させて治療を受けたいのか」を率直に担当医に伝え、よく相談することが大切です。

◇乳がん治療の検討手順（一例）

他の臓器へ転移あり → 薬物療法

他の臓器へ転移なし

- 腫瘍が小さい → 手術療法
- 腫瘍が大きい →
  - ・乳房温存手術（＋手術後放射線治療法）
  - ・乳房切除手術（＋リンパ節廓清）
  - ※再発の危険度に応じて、手術後薬物療法や放射線治療
  - 手術前薬物療法　＋　手術療法